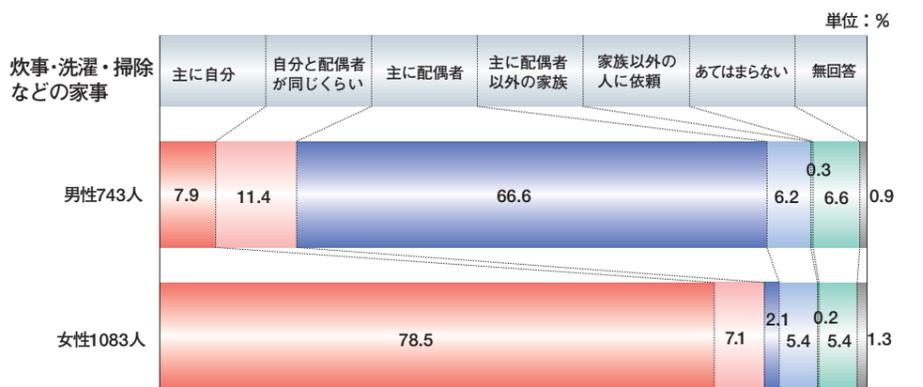


2 家庭生活について

炊事・洗濯・掃除などの家事は女性が担っている

家庭生活における家事や育児、介護などの役割分担について、主に女性が行なっている場合が多くなっています。このうち、女性が家庭で行なうこととして、もっとも高い割合を占めたのは「炊事・洗濯・掃除などの家事」で、男女ともに60%を超える人が女性が担っていると答えています。



3 就業について

出産で退職し、子どもが大きくなったら再就職する働き方への希望が約半数

女性が職業を持つことについて、男女ともに、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断再就職の意向が約半数を占めています。「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という就職継続の意向を大きく上回っています。

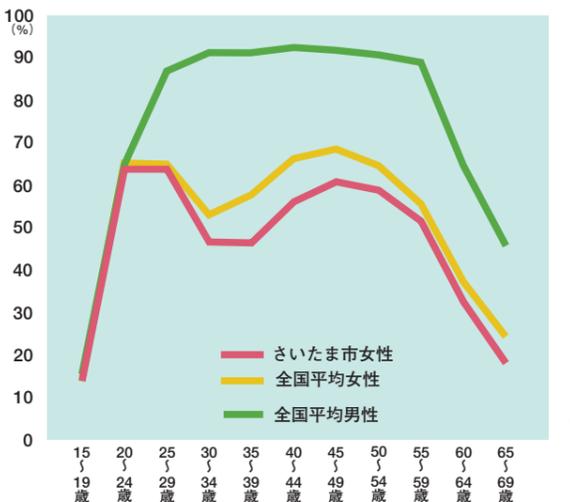
総数1931人

| 順位 | 希望する働き方 | 割合 |
|-----|-----------------------------------|-------|
| 第1位 | 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい | 48.2% |
| 第2位 | 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい | 28.2% |
| 第3位 | 子どもができるまでは職業をもつ方がよい | 6.6% |
| 第4位 | 結婚するまでは職業をもつ方がよい | 3.5% |
| 第5位 | 女性は職業をもたない方がよい | 1.0% |

※「わからない」「その他」「無回答」を除く

(参考) 年齢階級別労働力率の推移

さいたま市と全国の女性の年齢階級別労働力率をみると、20歳代後半から30歳代で、出産・育児のために仕事を中断するM字型曲線を描いており、特にさいたま市では30～34歳、35～39歳までの女性の労働力率が全国と比べて低くなっています。



出典：総務省「国勢調査報告」平成12年

※特集で掲載していない調査結果については、市のホームページ(7ページ参照)をご覧ください。

通信員レポート ②

藤川幸子



市民意識調査の回収率、回答内容はだいたい想定範囲でした。ただ結果のなかで、「知っている」と回答される用語の比率*の高いものは、新聞やテレビ等のメディアにより多く取り上げられたものであるように思われます。「男女共同参画とは？」と問われたら戸惑う人が大半です。家庭生活、社会生活等すべての日常生活の中にあるという意識をもっとしっかり持てるようになればと思います。メディアからの知識も大切ですが、地域からの発信も重要かと思われます。

通信員レポート ③

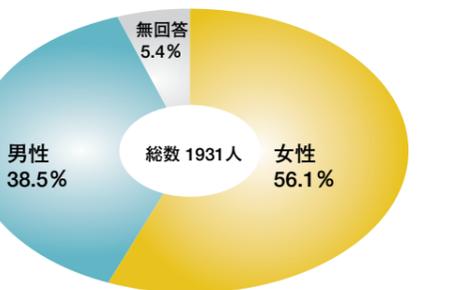
青島朋子



私が特に気になる結果は二つあります。一つは、いわゆるM字型就職希望が約半数もいたことです。これでは職場での女性の地位向上は難しいと思います。女性にも家族や社会の協力を得て働き続けるという強い意志が必要だと思います。もう一つは、出生率低下の原因として、経済的負担と、子育てと仕事を両立させる社会的なしくみ(雇用条件、保育等)が整っていないと答えた人が大変多かったこと*です。この部分は行政や地域の積極的な応援で改善できるはずですから、すぐにも具体策を考えるべきです。

回答者の属性

回答者の性別は、女性が男性より多くなっています。年齢は、いずれの年代でも女性が多く、男性は50歳以上、女性は30歳以上の回答者が多くなっています。



調査項目

1. 男女平等に関する意識について
2. 家庭生活について
3. 就業について
4. 社会参画について
5. 学校教育について
6. 配偶者などからの暴力について
7. 市の男女共同参画の推進に関する施策について

男女共同参画に関する市民意識調査

あなたなら、どう考えますか？

さいたま市では男女共同参画社会の実現に向けて、市民の皆さまの意識や実態を知り、今後の施策の推進に反映させるために調査を行ないました。ここでは調査結果の一部を紹介します。

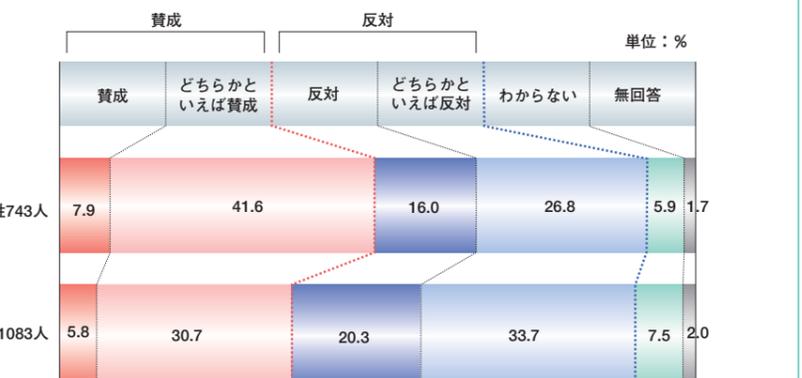
調査の概要

1. 調査地域: さいたま市全域
2. 調査対象: 市内在住の満20歳以上の男女5000人
3. 抽出方法: 住民基本台帳・外国人登録原票より無作為抽出
4. 調査方法: 郵送配布、郵送回収
5. 調査期間: 平成18年8月1日～8月21日

1 男女平等に関する意識について

「男は仕事、女は家庭」という役割分担意識に男女で違いがみられる

性別による役割分担について、全体では反対が多くなっていますが、男性では賛成の方がやや多くなっています。一方、女性では反対が多い傾向が見られ、男女の意識に違いがみられます。



市民意識調査の結果について、私はこう考えます。



通信員レポート ① 武藤勝美

10年余り、県や市の男女共同参画に関わる催しや行事などに参加して、その会場の発言、雰囲気から男女共同参画社会(男女平等)の実現が推進しつつあると思っていました。アンケートの中で、もっとも重要と思われる事項、「男女の地位は平等になっていると思いますか」という問い*に社会通念や慣習などについて、「男性のほうが優遇されている」「男性の方が非常に優遇」と「どちらかといえば、男性の方が優遇」の合計)と答えた人が73.6%となっていた。まだまだ「男性優位」が社会の底流にあるのかなあと感じました。